

No. 6

MAR.2016

住民
ワーク
ショップ

おいらせの学び MIRAIカフェ

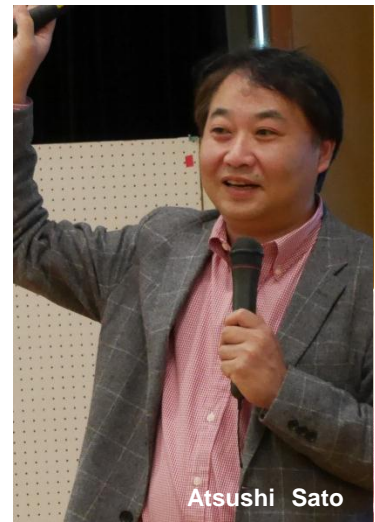
MEMBERS LETTER

わたしたちのふるさと
もっと好きになろうよ。



「おいらせの学び MIRAI カフェ」は、おいらせ町教育委員会が主催するワークショップです。これから社会教育を推進するにあたり、住民と行政がいっしょにおいらせ町の将来の地域づくりを語りながら考える場です。

COORDINATER'S VOICE



青森中央学院大学経営法学部

准教授 佐藤 淳

全6回のワークショップと1回のフォーラムを開催した「おいらせの学びMIRAカフェ」も無事終わりました。コーディネーターとして、このMIRAカフェでは、「対話(ダイアログ)」を大事にして運営してきました。「対話」とは、「討論(ディベート)」のように、互いの立脚点を明らかにし、相手を論破する様な話し合いではなく、違いに耳を傾け、意見の多様性を知り、新しい知見を得る、そんな話し合いのやり方です。対話の効果は、参加者の気付き、関係性(つながり)の構築、プロセスの中での腹落

ち、前向きな次へのアクションなどがあります。その対話の手法の一つが、MIRA カフェでも何回も行った、席替えをしながら少人数のグループで対話を重ねる「ワールドカフェ」です。

「地方創生」の時代、これから問われるのは地域での「話し合いの質」になります。MIRA カフェがきっかけに、おいらせ町に対話の文化が広がり、地方創生、イノベーションが起ころうことを楽しみにしております。1年間ありがとうございました。

あしがき

おいらせ町教育委員会
社会教育・体育課

社会教育主事 成田 和久

- 町誕生10周年という節目で、今、社会教育に何が必要か考えた末に出た答えが、住民が気軽に町の事を語り合える場「おいらせの学びMIRAカフェ」でした。
- 7月から12月までの間に、全6回のワークショップにプラスでMIRAフォーラムを開催し、私自身が発見し感じた多くの事から3点だけ紹介します。
- ① 「対話」の楽しさと必要性を実感した
- ② 参加者それぞれの「思い」を共有できた
- ③ 参加者同士のネットワークができた
- 最後に、MIRAカフェ開催にあたり、コーディネーターの佐藤先生をはじめ、県教育委員会の先生方、フォーラムに出演くださった皆様、そして、それぞれの「思い」を持って申込み、参加くださった皆さまに感謝します。
- ありがとうございました。

成田が考える

地域づくりの POINT

1. 住民が主体であること
※行政の関わり方が重要
2. 気軽に話せる場があること
3. 要求課題(ニーズ)と必要課題をしっかりと整理すること
4. 話し合った結果が実践につながる
5. 町にとって役にたつ実践であること
6. 熱い「思い」を共有し持続させること

